

行田市市民公益活動推進基本計画（第2期）（案）

基本目標	事業名	実施目標	実施方法	成果目標	達成年度
(1) 参加のきっかけづくり	団体情報の収集・整理・発信	市民活動サポートセンターに情報が集まり、整理できる仕組みの構築	◆市民公益活動登録団体への支援内容の充実を図るとともに、登録する意味を広く周知し、窓口となる市民活動サポートセンターの利用者を増やします。 ◆必要な情報を分かりやすく提供します。	市民公益活動登録団体の市民活動サポートセンター毎月の延利用件数50件 登録団体の紹介、活動の紹介など、さまざまな媒体を利用した情報提供	5年度 6年度
		市民活動団体の情報発信のサポート	◆情報発信の課題や悩みなどの聞き取りを行い、課題ごとに対策できる体制を整備します。	情報発信相談体制、協力体制の確立	6年度
		SNSを活用した情報発信	◆NPOが、活動にあったSNSを活用できるよう、支援体制を構築します。	SNS相談・活用窓口の設置	9年度
		市民活動団体を対象とした広報セミナーの開催	◆SNS、紙媒体、動画等、目的ごとに活用できるツールに関するセミナーを開催します。	目的ごとのセミナーを開催	9年度
		市民活動を体験する機会の提供	◆市民活動への参加、ボランティアスタッフの体験など、様々な関わり方の機会を提供します。	NPOが体験参加希望者やボランティアスタッフを受け入れることができるように支援体制を確立	5年度
				体験参加者やボランティアスタッフなどの体験談を市民やNPOに発信	7年度
(2) 活動活性化への仕組みづくり	市民活動団体の自立化促進	自主財源のみで成功した事例の情報提供	◆補助金、助成金等を活用せずに実施した事業をNPOに積極的に発信します。	自主財源のみで実施した事業の事例発表会の実施	9年度
		やる気応援助成金制度の活用	◆より効果的に活用されるよう、活用方法等について相談体制の強化を図ります。	毎年3団体が助成金を活用	9年度
			◆助成金活用団体の活用事例を知る機会を様々な方法で提供します。	成果発表会を実施するとともに、年度ごとの成果をまとめ、NPOへ提供	5年度
		各種助成金情報の収集・提供	◆国、県、民間などを含め、様々な助成金情報の収集・提供に努めます。	助成金一覧表の作成	7年度
(3) 交流の機会、ネットワークづくり	多様な主体間の交流機会の創出	様々な機会を活用し、団体間をマッチング	◆NPO情報及びニーズの収集に努め、積極的にマッチングを提案します。	マッチング案件を年間12件	8年度
		ボランティアセンターとの連携	◆ボランティアセンターとの情報交換会を実施し、常に新鮮な情報の共有を目指します。	ボランティアセンターと月1回の情報交換会の実施	6年度
			◆ボランティアセンターの情報をNPOに発信します。	ボランティアセンター登録者とNPOとの連携及びNPO活動への参加	9年度
(4) 協働の推進	協働意識の醸成	協働事業の実施	◆市職員の協働に対する理解の促進と知識の習得を図り、市民活動サポートセンターや地域活動推進課がコーディネート機能を果たしながら、相互の調整や情報提供などを進めます。	NPOとNPO、NPOと市などの協働事業を毎年6件以上実施	9年度
		協働事業提案制度の導入	◆他市の事例を基に、行田市に合った協働事業提案制度の創設を研究、検討します。	行田市版協働事業提案制度の創設	9年度
(5) 支援するための仕組みづくり	市民活動サポートセンターの機能充実	市民活動の専門家を配置	◆他市への視察、さまざまな分野の市民活動への参加により人材情報の収集に努めます。	市民活動を支援するために必要や知見やノウハウのある専門分野の人材やNPOと連携した相談件数を年12件	9年度
		職員のスキルアップ	◆相談体制を充実させる上で必要なコーディネーターとしての人材を育成します。	専門知識の取得のための研修参加及びNPOとサポートセンターの協働事業の開催を年3回実施	7年度
		ニーズの把握	◆NPOのニーズの把握ができる場をつくりま	NPOとの意見交換会を年6回開催	8年度
		団体が利用しやすいセンターとしての整備	◆必要とされるセンターづくりに努めます。	市民公益活動登録団体の市民活動サポートセンター毎月の延利用件数50件	5年度